

自己評価実施日	平成30年1月22日	包括情報	
行政評価実施日	平成30年2月20日	法人名	社会医療法人 平成醫塾
運営協議会開催日	平成30年3月19日	責任者	本間 啓介
		連絡先	0144-33-4165

地域情報	
担当地区	明野新町、泉町、音羽町、三光町、新明町、住吉町、字高丘(55・56・60除く)、日の町、双葉町、字丸山、美園町、柳町
高齢者人口	7,210 人(H29.10.1現在)
高齢化率	25.1 %(H29.10.1現在)
地域特性	古くからの集落で高齢化率も高い音羽町・双葉町・美園町・泉町、公営住宅が多くある住吉町、高齢者の比率が低い日の出町・柳町、商業施設が多くあり高額所得者が多い三光町、新興住宅地と単身者向けアパートが多い新明町・明野新町・字高丘(5556・60を除く)、支笏湖に近くて民家がほとんどない字丸山の12地域で構成。高齢者世帯の見守り状況は、民生委員や町内会での見守り体制となっている。新興所宅地や単身者の多い地域などは地域との接点がなく、隣人にも関心をもたない人が多い。公営住宅の世帯には生活保護・独居・高齢者・障がい者世帯が多く見られ、高齢者と若い世代の接点はあまりない。

職員体制	
○職種	○雇用形態
保健師または看護師 1 人	常勤職員 5 人
主任介護支援専門員 2 人	非常勤職員 1 人
社会福祉士 2 人	
その他 1 人	○常勤職員の平均勤務年数
	平均 4.6年

総合評価	
自己評価	行政評価
今年度は職員の入れ替えもなく、安定して各委託事業に取り組む環境が維持できた。認知症施策の推進は搜索模擬訓練が一つ次年度以降の実施検討となったが、予定していた地域へは介入しネットワーク構築への一歩とすることができた。その一方で認知症初期集中チームの活用と地域ケア会議の開催については、当初の目標に向けて計画的に準備など、各職員で取り組み方や意欲に開きが見られ、計画的に取り組むことが出来なかった。	住民主体の地域づくりを意識し、住民や医療機関・介護事業等と積極的に連携し、社会資源のネットワーク作りや地域の課題解決に向けて取り組んでいることを評価する。今後は認知症初期集中支援チームや地域ケア会議の開催等を積極的に活用した取り組みも期待する。

評価項目		
運営体制		
(1)運営方針に沿った事業計画をたて、職員全体に理解・共有されている		
(2)ミーティング等を計画的に開催し情報共有している		
(3)職場内外の研修機会を確保し、内容の共有をしている		
(4)個人情報含む記録物を適切に保管している		
(5)委託業務に基づく書類等を期日内に提出している		
(6)苦情の内容と対処についてセンター内共有し再発防止に努めている		
(7)プランナーの雇用等センターを適切に運営するための人員体制が整備されている		
(8)相談・面談室のプライバシーが確保されている		
(9)休日・夜間の連絡体制が整備されている		
特記事項	自己評価	事業評価
	相談・面接室のプライバシー確保について、室内は視覚は防げるが声は漏れる。相談者は事務所を通過して入室しなければならない状況。	定期・突発的ともに会議等で職員全体に情報共有できる体制が整われている。相談・面談室は相談者が安心できる環境づくりを思案することが望ましい。
共通的支援基盤構築		
(1)ホームページ等独自の広報活動及び取組報告を行っている		
(2)既存の社会資源やニーズの把握及び地域の実態把握を行っている		
(3)既存の社会資源を地域のニーズに応じて改善したり、開発に向けた取組を行っている		
特記事項	自己評価	行政評価
	母体法人での広報活動、ステイのチラシ(1回/月)で包括をPR。認知症に関する人的社会資源の育成に取り組んでいる。	母体法人とともに包括のPR活動を積極的に行い、そこからニーズ把握や支援に繋げていること、また包括地域マップを随時更新し地域の実態把握に努める姿勢を評価する。今後も継続した取り組みを期待する。

評価項目		
総合相談支援・権利擁護		
(1)相談には速やかに対応し、的確な状況把握及び信頼関係の構築に努めている		
(2)的確に状況を把握し緊急性の有無を判断している		
(3)相談内容およびその後の経過等が適切に記録・管理されている		
(4)困難事例は速やかに3職種の専門性をふまえて協議し、結果を記録に残している		
(5)主担当以外においてもケースの概要を把握している		
(6)センター運営全体に関する課題や地域の課題について定期的に情報共有し検討している		
(7)家族介護者に対する相談支援、情報や知識・技術の提供を行っている		
(8)成年後見制度の相談に適切に対応し、利用支援できている		
(9)高齢者虐待防止及び対応において、マニュアルに基づき適切に行っている		
(10)職員が消費者被害の動向を把握し、必要時関係者に情報提供している		
	自己評価	行政評価
特記事項	困難事例に対しては3職種で協議はしているが、協議内容についての記録は行っていない。ただし、個別対応については相談記録に載せている。相談内容の経過について、記録が一部できていない。	相談内容を精査し専門性を踏まえて検討対応を行なっている。一方議事録や記録がないことは情報の欠落につながり適切な対応ができない可能性もある。今後記録の整備に努めることを期待する。
包括的・継続的ケアマネジメント支援		
(1)医療機関や介護事業所等を把握し、連携体制が得られやすいような働きかけを行っている		
(2)介護支援専門員に対し、困難事例の同行訪問やサービス担当者会議への出席を通じたサポートを行っている		
(3)介護支援専門員の資質向上のため、研修会や事例検討会等行っている		
(4)定期的・効果的に地域ケア会議を開催し、顔の見える関係づくりを行っている		
(5)地域にある資源についての情報を把握し、いつでもその情報を提供できるよう準備している		
	自己評価	行政評価
特記事項	地域ケア会議の開催は、定期的ではなく必要時の開催となっている。	地域の社会資源を利用し関係機関との構築が図られていることは評価する。今後地域ケア会議で個別会議を積み重ね、圏域会議への取り組みの発展を期待する。

評価項目		
介護予防マネジメント・介護予防支援		
(1)介護予防の取組を生活の中に取り入れられるよう支援を行っている		
(2)要支援状態の悪化の防止、あるいは改善を目指した支援を行っている		
(3)非該当者や介護予防事業の参加につながらなかった人に対し、本人の状態確認を行い、適切な支援や情報提供をしている		
	自己評価	行政評価
特記事項	今年度は非該当者がいなかったため、高齢者世帯調査や、ステイで毎月第2木曜日で開催されている「ちょこっと相談茶屋」において、適切な支援や情報提供を行っている。	本人の意向を随時確認しながら要支援状態の悪化防止や改善に向けたプラン作成や支援に取り組んでいる。
認知症施策の推進		
(1)必要な人を認知症初期集中支援チームにつなげ、適切に支援している		
(2)サポーター養成講座や搜索模擬訓練等住民への正しい知識の普及を図っている		
(3)認知症地域支援推進員と連携し地域づくりに向けた取組を行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	・認知症初期集中支援チームの対象者については、通常の包括業務で適切に支援対応している場合がある。	サポーター養成講座や搜索模擬訓練等地域への普及活動は活発的である。今後、認知症初期集中支援チームの意味を理解し適切な支援につなげていただきたい。
在宅医療・介護連携推進		
(1)医療機関・介護サービス資源・情報を把握している		
(2)在宅医療・介護連携に関する相談支援が効果的に行われている		
(3)医療機関や介護事業所を訪問し、連携体制を得られやすいような働きかけを行っている		
	自己評価	行政評価
特記事項	包括職員として、在宅医療・介護連携の推進に関した様々な会議に参加している。	今後も積極的に会議等に参加し、連携体制を強化し、支援につなげることを期待する。

評価項目		自己評価	行政評価
生活支援体制整備			
(1)総合相談や地域ケア会議等を通じて地域課題や資源把握に努めている			
(2)生活支援コーディネーターと連携した地域づくりに努めている			
	自己評価	行政評価	
特記事項	地域づくりのために、各年度ごとに意図的に介入する町内会を設定し対応している(平成29年度は美光町内会、日の出三光町内会) 町内会の会報やあやゆるの場面で、圏域の資源把握に努めている。	生活支援コーディネーターの役割について、包括での認識の違いから評価をしてないが、生活支援コーディネーターと連携した活動は行われており、今後は地域づくりのために生活支援コーディネーターと連携していただきたい。	
一般介護予防事業			
(1)介護予防の重要性や一般的な知識、介護予防事業に関する情報について積極的に普及啓発している			
(2)介護予防教室の参加者が、自らの機能を維持向上する努力ができるようわかりやすい情報の提示や助言を行っている			
(3)介護予防教室が終了したあと、対象者の心身の状況等把握し適切に評価している			
(4)評価後もフォローが必要な対象者を把握し、フォロー継続できている			
(5)地域の関係機関やボランティア団体等の定例会等に参加し、介護予防に関する地域情報を把握している			
(6)地域の関係機関やボランティア団体等からの出前講座等の依頼に対し積極的に協力している			
	自己評価	行政評価	
特記事項	年に4回の講話にて、現在の話題に即した内容で講話を依頼している。 ボランティア見学の受け入れを常時行っているが、今回ボラセンまつりにて、教室やボランティアの紹介を行っている。	介護予防の情報等サポートが必要な対象者へのフォローが継続されていることに評価できる。今後も積極的な対応を期待する。	

評価基準

- ◎ 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施した上に独自の取組等優れた業務を実施できた
- 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施している
- △ 評価項目や仕様書等で定められた業務を何らかの理由により一部実施できなかった
- × 評価項目や仕様書等で定められた業務を実施できず、改善が必要

<p>事業年度計画のうち、特に重点的に行った事業及び内容</p>
<p>・認知症施策の推進⇒圏域担当の認知症地域推進員・社会福祉協議会職員、認知症キャラバンメイト・認知症見守りたい、認知症サポーター養成講座修了者と連携を図り、認知症サポーター養成講座と捜索模擬訓練を2つの未実施地域(日の出三光町内会、美光町内会)で展開。地域住民への正しい知識の普及を図るとともに、認知症の理解、見守り意識の向上のため、主体的に捜索模擬訓練等を開催し、地域のネットワークづくりへ繋げる。また、圏域内のキャラバンメイトやグループホームと協力して、小学生を対象とした「認知症キッズサポーター講座」を圏域内の3つの小学校(緑小、美園小、明野小)に対して、前年度と同様に継続開催。地域における支援ネットワーク構築を、推進していく。</p>
<p>今年度事業の達成状況及び成果</p>
<p>・認知症初期集中支援チームの活用、地域ケア会議の開催運営は目標とする稼働数と開催数には至らず。在宅医療と介護連携推、生活支援体制整備については、それらの関連した会議に出席のみ。その他の各委託事業については概ね達成。重点的に取り組んだ認知症施策の推進は予定していた日の出三光町内会と美光町内会、3つの小学校(緑小、美園小、明野小)へ認知症キッズサポーター養成講座を開催、認知症の正しい知識の普及を図った。美光町内会においては捜索模擬訓練を開催、警察や認知症見守りたいや見守り事業に参加している企業にも協力を依頼、地域の見守り意識の向上やネットワークづくりへのきっかけを作った。はつらつ教室終了者の受け皿の調整、包括地域マップにSOSネットワーク事前登録者と認知症見守りたい、改選となった民生委員を加えて更新した。</p>
<p>達成できた又は達成できなかった原因</p>
<p>・達成できた要因⇒包括内で実施に向けた検討がなされ、地域ならびに関係機関の協力を得るための努力を図ったため。 ・達成できなかった原因⇒各職員の事業に対する取り組み方や意欲に開きが見られている。地域からの協力を上手く引き出すことが出来なかった。</p>
<p>課題及び今後の取り組み</p>
<p>・課題⇒包括内部での意見をまとめ、地域からの協力を上手く引き出す。 ・今後の取り組み⇒認知症施策の推進を未介入の町内会に対して、認知症サポーター養成講座、捜索模擬訓練、地域ケア圏域会議を通じて、意図的な介入をして行く。</p>